



# 最優秀賞受賞にあたって

千葉県南房総市立丸山中学校 すずき やすよ 鈴木康代

このたびは大変大きな賞をいただき、大変な責任すら感じております。

今回の論文のテーマは、4年前から取り組んだ野外実習と博物館との連携授業を取り上げたものです。

この取り組みのきっかけとなったのは、私の勉強不足で千葉県に住んでいながら、千葉県でいちばん高い山の名前を知らなかったことから始まりました。何かの研修で、「千葉県の山でいちばん高い山を知っていますか？」ときかれたときに、「いちばん有名なマザー牧場で知られている鹿野山かな？ それとも鋸山かな？」と私は思ったのですが、まったく違いました。「愛宕山」という山でした。そして、愛宕山は本校、丸山中学校の学区の中にあつたことで、私は大変ショックを受けました。

まだ赴任したばかりだからと自分を慰めたのですが、職場に帰り、教えている50人の子どもたちにこの質問をしたところ、正解できたのはたったの3人でした。地元で十何年も住んでいながら、自分たちがいつも見ている山が、千葉県でいちばん高い山であることも知らない、そういうことが私にはとてもショックでした。

しかし、逆にそういった地域に関連したものを教材にしていけば、子どもたちは、「学ぶ意義」というものを感じ、より理科が好きになってくれるのではないかと思い、教材化することにしました。ところが、私にはまったく地域の知識がありません。そこで地元の中央博物館に電話

をしたところ、そこは特別な地区だから特別にずっと研究している方がいるということを教えていただき、高橋直樹先生を紹介していただきました。

先生とお話をしていくうちに、自分が勤めているこの地区が、火山がないのに火山由来した岩石がたくさん出ることや、世界で見つからない、初めて見つかった鉱物である「千葉石」が出た大変珍しいスポットであることがわかりました。当然、子どもたちはそんなことも知りませんし、お母さん方に聞いても、「えっ、そんな鉱物出たんですか？」ということで、これはますますショックでした。そこでこれをなんとかしたいと思ったのが、この取り組みの始まりでした。

高橋先生と下見をしたり、いろいろと授業を進めていったりする中で、自分も学ぶことが多く、私自身がいちばん楽しんでこの取り組みを進めてきたような気がします。子どもたちから、「道端にある石にも目がいくようになりました」「自分たちの土地が世界でも注目されているスポットであることがわかってすごく誇りに思います」「教科書に載っている花崗岩とかそういったものは写真だけかと思ったけれども、そこら辺の河原にあつたんですね、先生」などという言葉聞くたびに、とてもうれしくなり、あっという間に4年が過ぎてしまいました。

これからもこの賞に恥じないように頑張っていきたいと思います。